

第3章 生活環境影響調査項目の選定

3.1 選定した項目及びその理由

本調査において、選定した生活環境影響調査項目及びその理由を下記に整理する。

(1) 影響要因と環境要素との関連

当該事業の目的、内容等に基づき、当該事業の実施によって環境へ影響を及ぼす恐れがある要因(以下、「影響要因」という。)と影響要因によって影響を受ける恐れがある要素(以下、「環境要素」という。)を抽出し、影響要因と環境要素との関連を表3-1-1のとおり設定する。

表 3-1-1 影響要因と環境要素との関連

調査事項	環境要素	影響要因	活動					存在
			煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設の悪臭漏洩	運搬車両の走行	施設の存在
大気質	二酸化硫黄		○					
	窒素酸化物		○				△	
	浮遊粒子状物質		○				△	
	塩化水素		○					
	ダイオキシン類		○					
	水銀		○					
騒音	騒音レベル			○		△		
振動	振動レベル			○		△		
悪臭	臭気指数		○			○		
	特定悪臭物質濃度(22項目)		○			○		
水質	生物化学的酸素要求量 または化学的酸素要求量			△				
	浮遊物質			△				
	ダイオキシン類			△				
景観	主要な眺望点からの眺望環境						○	

※1 表中の○印は、各影響要因による影響が考えられるため、環境要素として設定し、現地調査を実施するとともに定量的な予測、影響の分析を行うもの。

※2 表中の△印は、各影響要因による影響が極めて軽微と考えられるため、既存資料や既存データの調査・整理のみを行い、現地調査、予測、影響の分析を実施しないもの。

(2) 選定した項目及びその理由

選定した生活環境影響調査項目及びその理由を下記に整理する。

1) 煙突排ガスによる「大気質」への影響

廃棄物の焼却に伴い、大気汚染物質を含む排ガスが排出され、周辺地域の生活環境への影響が考えられるため、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、塩化水素、ダイオキシン類、水銀を生活環境影響調査項目として選定した。

2) 施設の稼働による「騒音・振動」への影響

施設の稼働に伴って発生する騒音が周辺地域の生活環境に影響を与えると考えられるため、騒音レベルを生活環境影響調査項目として選定した。

施設の稼働に伴って発生する振動が周辺地域の生活環境に影響を与えると考えられるため、振動レベルを生活環境影響調査項目として選定した。

3) 煙突排ガスによる「悪臭」への影響

廃棄物の焼却に伴い、排ガスが排出され、周辺地域の生活環境への影響が考えられるため、臭気指数及び特定悪臭物質（22項目）を生活環境影響調査項目として選定した。

4) 施設の悪臭漏洩による「悪臭」への影響

施設の稼働に伴い、悪臭が施設から漏洩し、周辺地域の生活環境への影響が考えられるため、臭気指数及び特定悪臭物質（22項目）を生活環境影響調査項目として選定した。

5) 施設の存在による「景観」への影響

施設の更新後、建屋及び煙突の存在による眺望景観への影響が考えられるため、景観資源及び主要な眺望点からの眺望景観を生活環境影響調査項目として選定した。

3.2 選定しなかった項目及びその理由

本調査において、選定しなかった生活環境影響調査項目及びその理由を整理する。

(1) 施設排水の排出による「水質」への影響

当該事業では、雨水以外の施設排水は公共用水域に放流しない(生活排水は農業集落排水の管路施設へ放流、プラント排水処理水は場内利用)ため、施設排水による「水質」への影響については、現地調査、予測、影響の分析を実施しないものとする。

(2) 運搬車両の走行による「大気質」、「騒音」、「振動」への影響

ななかりサイクルセンターにおける搬入車両の状況を表 3-2-1、図 3-2-1 に整理する。「計画収集(委託)」の搬入台数は減少傾向であり、「計画収集(許可)」、「直接搬入(事業者等)」の搬入台数は変動がない状況である。しかしながら、「直接搬入(一般家庭)」の搬入台数は増加傾向である。「直接搬入(一般家庭)」における運搬車両は、小型車両(乗用車、軽トラ)である。また、ななかりサイクルセンターでは、燃えるごみを RDF(ごみ固形燃料)として、石川北部 RDF センターへ搬出している。ななかりサイクルセンターにおける RDF 搬出車両の状況を表 3-2-2 に整理する。RDF の搬出は、大型車両(10t ダンプ車)で行っており、搬出車両の台数は約 1,000 台/年である。ごみ処理施設の整備後は、燃えるごみを焼却処理するため、RDF 搬出車両はなくなり、焼却灰の搬出車両(4t ダンプ車)は 1~2 回/日となる計画である。

運搬車両の走行による影響を予測する場合、運搬車両は周辺環境に与える影響が異なるため、大型車両と小型車両に区分して検討を行う。表 3-2-3 に大気、騒音、振動に関する大型車両と小型車両における周辺環境への影響の差を整理する。大型車両による周辺環境への影響は、小型車両における影響の大気で約 14~17 倍、騒音で約 4 倍、振動で 13 倍に相当する。これより、運搬車両の走行による周辺環境への影響は、「直接搬入(一般家庭)」(小型車両)の増加による影響よりも、ごみ処理施設の整備によって、なくなる RDF 搬出車両(大型車両)による影響の方が大きいと考えられる。よって、運搬車両の走行による影響は軽微又は低減されると考えられる。

また、小型車両の増加傾向についても、七尾市、中能登町ともに将来人口は減少傾向であること、行政指導等によって搬入台数の増加を抑制できることから、将来的に増加傾向が継続される可能性は低いと考えられる。

以上より、運搬車両の走行による「大気質」、「騒音」、「振動」への影響については、現地調査、予測、影響の分析を実施しないものとする。

表 3-2-1 ななかりサイクルセンターにおける搬入車輛の状況（台/年）

搬入車輛		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
計画収集 (委託)	2t・4t パッカー車	4,884	4,869	4,561	4,405	4,279
計画収集 (許可)	2t・4t パッカー車	3,741	4,000	4,187	4,239	4,178
直接搬入 (一般家庭)	乗用車、軽トラ等	8,233	9,669	10,080	11,147	12,253
直接搬入 (事業者等)	2t・4t パッカー車	3,849	4,051	4,110	4,032	3,874
合計		20,707	22,589	22,938	23,823	24,584

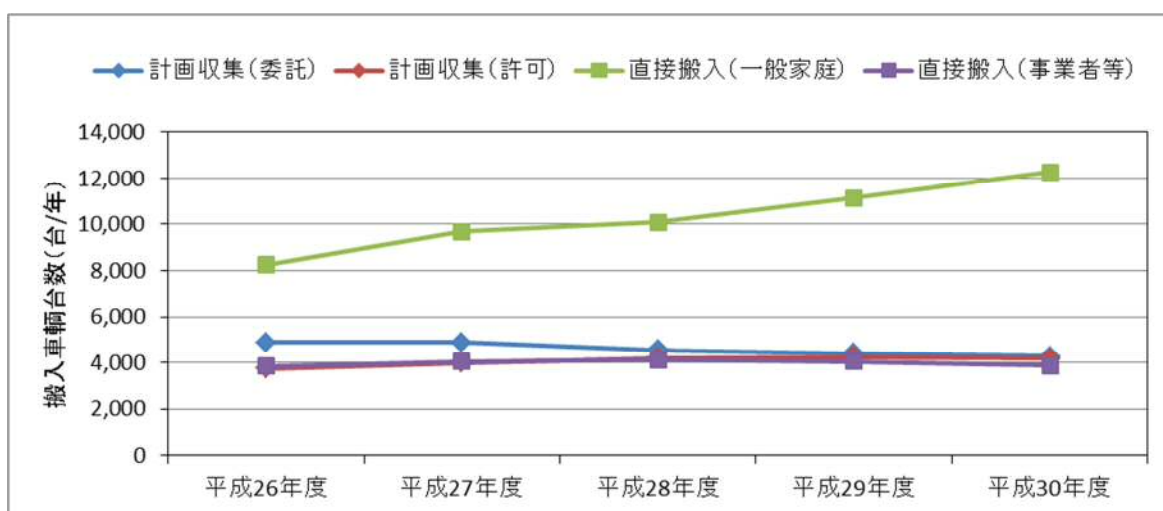


図 3-2-1 ななかりサイクルセンターにおける搬入車輛の状況

表 3-2-2 ななかりサイクルセンターにおける RDF 搬出車輛の状況（台/年）

搬入車輛		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
RDF 搬出	10t ダンプ車	1,064	1,088	1,110	1,045	1,075

表 3-2-3 大型車輛と小型車輛における周辺環境への影響の差

項目	大型車輛による影響	算出根拠*
大気	窒素酸化物	大型車輛の排出係数 (1.67) と小型車輛の排出係数 (0.097) の比率から算出 (排出係数は平均走行速度 30km/h の場合の値)
	浮遊粒子状物質	大型車輛の排出係数 (0.086) と小型車輛の排出係数 (0.006) の比率から算出 (排出係数は平均走行速度 30km/h の場合の値)
騒音	小型車輛の約 4 倍	大型車輛のパワーレベル (97.5dB) と小型車輛のパワーレベル (91.0dB) から算出 (パワーレベルは平均走行速度 30km/h の場合の値)
振動	小型車輛の約 13 倍	大型車輛の小型車輛への変換係数 K (平均走行速度 100km/h 以下)

※廃棄物処理施設生活環境影響調査指針（平成 18 年 9 月、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部）における各排出係数、パワーレベルの算定式から作成